（別紙4-1） ユニット1

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0176000040		
法人名	クリーンハウス株式会社		
事業所名	グループホームたんぽぽ		
所在地	三笠市高美町４４４番地		
自己評価作成日	平成２２年７月２日	評価結果市町村受理日	平成２２年９月３日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0176000040&SCD=320

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

一人ひとりの生活状況に合わせて個別のケアを行っています。
地域の人達の関わりを大切に、ホームの行事に招待したり、こちらから地域行事に参加しています。
利用者の好みや体調を考えながら、外食に出かけたり、誕生会を行っています。
ホームの行事には地域の人達がボランテァに来て下さっています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	有限会社　ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北１条西5丁目3番地北1条ビル３階
訪問調査日	平成２２年７月２１日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

7年目を迎えた木造平屋建て2ユニットのホームで近隣に２ヵ所、計4ユニットを持つ株式会社が母体のホームです。利用者の重度化が進む中で穏やかに安心して暮らし続けるために一人ひとりに寄り添い、個別ケアを重視した細やかな支援に施設長・管理者・職員は日々研鑽しています。利用者と家族の大半が「このホームで看取ってほしい」という要望が出されています。終末期には在宅に力を入れている往診医から、利用者の身体状況に応じたホームでの看取りについて家族へ説明し、確認を取っていることが家族への安心に繋がっています。また、地域との連携も良好で町内会行事に参加したり、ホームでの「焼肉会」には周辺住民の方々に案内と無料食券をポスティングし、140名の参加が得られました。地域の子供たちを中心とした「縁日」もホームの大きな行事となっています。運営推進会議を通じてホームの理解に結びついたり、ボランティアとの繋がりも出来て、地域に根ざしたホームです。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

（別紙4-1）ユニット1

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域での安心した暮らしを支える為の理念を職員全員で話し合い策定している。日々の会話の中や施設内研修において、理念の実践に向けて勉強を続けている。	住み慣れた地域で、その人らしく安心して暮らしていくため、独自の理念を全員で作り上げています。職員は、日頃のサービス提供現場で、理念を振り返るきっかけにしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの行事（焼肉会、縁日など）に近隣の人達を招待し、利用者も地域の行事などに参加している。	ホームは、地域の一員として町内会行事に利用者と一緒に参加したり、ホームの行事（焼肉会）等、近隣住民の方々に無料食券をポスティングして参加を促し、大盛況で終えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ヘルパー２級研修の実習生を受入れている。福祉について学びたいという地域の生徒の自主学習を行っている。ふれあい健康センターでの介護予防教室に参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では事業所からの報告事項が主となりがちだが、検討事項では広く地域の情報を交換しながら今後のサービスを検討している。運営推進会議を通してボランティアが生まれ具体的に活動されている。	会議のメンバーに変化はありませんが、定期的に開催されています。地域との活発な意見交換が行われる中で、協力体制が構築され、ボランティア（生け花、音楽）の導入にも繋がりました。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援専門員会議に毎月出席し交流を図っている。入居者、退去者の報告、情報の開示等の用件や国保連からの情報提供についての連絡等で都度担当者とは情報交換を行っている。	市の担当者とはホームの適切な運営を図るため、情報交換を行い、利用者のサービス向上に取り組んでいます。ホームでの大きなイベントには、社協からテント等を借りています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修委員会を設置し身体拘束防止のための研修や話し合い、事例検討を行いケアを実践している。	玄関や非常口は日中施錠せず、開放的な暮らしを支援しています。職員は「不適切な関わりや拘束の対象となる具体的な行為」について研修を行ったり、虐待防止委員会を設置して適切な支援に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修会に参加している。ホーム内に虐待防止委員会を設置し、問題点を検討し虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・一部職員は研修をしている。支援活動はした事がない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者には契約の前にホームを訪問して短時間過ごして貰い不安や疑問点を尋ねて貰うようにしている。契約時には時間をかけ説明し、同意を得るようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には何でも言っていただけるような雰囲気作りを普段からしています。利用者の意見は家族と共に情報交換をしており、ケア会議職員や会議で反映させている。	家族会はありませんが家族の来訪時や手紙などで常に問いかけ、意見・要望などを検討内容に加え、運営に反映させるように取り組んでいます。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、連絡ノートを活用し反映させている。	職員の意見やアイデアは、職員会議やミーティングで反映しています。施設長や管理者は、若いスタッフの斬新なアイデアを受け入れて会議で検討しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長は日常的に職場に出て職員の仕事の様子をみている。向上心を持って働けるように人事評価規定を元に職員の評価をし賃金に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数・実績などを元に外部の研修会に積極的に参加してます。また施設内研修を毎月行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加しており、協議会の研修会などで他事業所と交流をしています。また他事業所との交互訪問も実施しました。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の望んでいる事を時間をかけ聞いたり、行動から適切に見極め受けとめる努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯をゆっくり聞くようにしている。家族が求めている事を対話の中から見極め、ホームでどのように生活していくにかを話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には可能な限り柔軟な対応を行い、場合によっては他の事業者のサービスにつなげるような対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得意分野で力を発揮してもらうための場面設定工夫と配慮をしている。支援する側という意識を持たずお互いに協働しながら和やかな生活ができるように声かけをしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子を生活状況報告での文書や電話、訪問時にきめ細かく伝えることで家族との協力関係が築かれていっている。家族を取り巻く状況も訪問時に伺い情報交換がされている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物や外食は地域の馴染みの店へ出かけている。毎月の命日にお寺さんがお参りに見えたり、知人が遊びにきたり、継続的な交流ができるよう働きかけている。	利用者がこれまで住み馴れた地域での馴染みの店で外食をしたり、行きつけの理髪店を利用したり、寺の住職にお参りに来て頂くなどの継続的な支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話しを聴いたり、皆で楽しく過ごす時間や気の合った者同士過ごす場面づくりをするなど職員が調整役を努めており、利用者同士が手助けをし合ったり、寂しがる人の側に居て上げるなど気持ちの支え合いもみられる。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	遠くに転居された利用者１名のみが終了されており、ご親戚、知人とはお会いした折には情報を交換している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から本人の思いを把握し、ご家族とも相談しながら本人の希望に沿ったケアが出来るように検討している。	利用者の中には帰宅願望が強く、落ち着かない状況で「仏壇を置いてきたので帰りたい」と訴える方もおりましたが、仏壇を持ち込むことで落ち着きを取り戻しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族から生活暦を聞き取りし、日常の生活環境を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	支援経過記録に日常の過ごし方や心理状態を記録し、できること・できないことを把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、アセスメントを含め職員全員で意見交換、モニタリング、カンファレンスを実施している。介護計画作成時には家族の意見が聞けるよう、話し合いをしている。	介護計画は日頃から利用者、家族の意見、要望を取り入れた具体的なものになっています。モニタリングは毎月行い、利用者の身体状況に変化が生じた場合には、見直し、現状に即したプランに変更しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過記録には身体・心理状況など暮らしの様子を記録し、職員の気付きなどを共有しながら介護支援計画に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かし、重度化した時でも生活の継続を支援している。他の福祉施設に入居されている家族との面会を支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心して暮らしていけるよう警察へ利用者の状況を連絡している。　周辺施設へ出かけたり、児童館、ボランティアへ協力を呼びかけている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に合わせ協力医の他、かかりつけ医での受診、往診、専門医での診察等複数の医療機関と関係を密にしている。	利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診となっています。受診や通院は職員が同行し支援しています。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約に基づき看護師と医療機関との連携を密に取れる体制を確保している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞うようにしている。家族ともこまめに情報交換しながら、早期退院につなげている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホーム独自に終末期生活支援に関する覚書を作成し、一部の家族と話し合いが出来てる。終末期には往診医に来ていただいています。	看取りの経験から終末期に向けた指針、覚書を作成し家族全員と話し合っています。往診医からは、家族に終末期におけるホームでの看取り等についての説明があります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルは整備され、消防署の協力を得て応急手当や蘇生術の研修を受けています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内で避難訓練を行っており、災害時の避難に備えています。避難先に近隣の施設を想定するなど協力をお願いしています。	避難訓練は定期的に行われ、近隣住民の方々へは、訓練の参加と災害時の応援要請を文書でお願いしています。火災を出さないための点検項目を挙げ、職員は定期的に確認をしています。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誘導の言葉かけには本人を傷つけない対応に配慮しており、ミーティングで日々の関わり方を徹底している。	トイレの前には収納椅子を設置し、日常品（尿取りパット）が収められ、随所で配慮がされています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりに合った話題の言葉かけを心がけている。本人が決める場面をつくり、時間をかけて待っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。本人の思いを把握し、その人なりの体調に配慮しながら個別性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には外出着に着替え、美容は本人希望の美容院に行っている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを取り入れている。職員と利用者は一緒のテーブルを囲み、音楽を掛けたり、会話をしながら楽しい雰囲気づくりを大切にしている。	食事は職員が利用者の好みや摂取状況に合わせた献立を作り、時にはホームの菜園で収穫された野菜も食卓に上ります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量水分量は記録されています。食事はバランスを考えて作られています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後自力又は介助を受け全員が口腔ケアに取り組んでいます。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握して、一人ひとりの状況に合わせ、さりげなく誘導してトイレで排泄できるよう支援している。	利用者の身体機能に応じた排泄パターンを把握して、トイレでの排泄に力を入れています。夜間は紙パンツ使用で対応していますが失敗する事もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取と運動に気を付け、個々の状態に応じた予防をしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望を重視して毎日入浴を実施している。時間帯は午後からになるが、早く入りたい人、遅い入浴を希望する人を把握し声掛けで対応している。	入浴は毎日支援しています。入浴を拒む利用者には清拭や足浴で支援し、1週間以上になると「明日は受診ですよ 」と声かけで、スムーズな支援に繋がっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望を重視して毎日入浴を実施している。時間帯は午後からになるが、早く入りたい人、遅い入浴を希望する人を把握し声掛けで対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は本人に手渡し、服用している事を確認している。服薬ファイルの作成や医療ノートに内服内容も添付されている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で1人ひとりの力を発揮できるように、できそうな仕事、やりたいことを頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気、本人の気分や希望に応じて、日常的に散歩、買い物、ドライブに出かけている。	利用者の気分や天候によって散歩や買い物は日常的に行い、花見、外食、弁当持参のドライブ等で季節を感じています。敷地内の庭園での語らいや、音楽療法は利用者のホームでの暮らしに華を添えています。	介護度の高い利用者は外出や散歩には拒否的で、居室で個別支援することが多くなっています。このため気分転換や外気浴にまで至っていません。職員がシフトを工夫したり、看護職が勤務する時間帯に支援するなど、今後の取り組みに期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の買い物をした時はご自分で支払うようにお金を手渡している。家族の協力を得て少額のお金を持っている人もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	小包や手紙が届いた時には報告の電話をかける事を勧めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一昔前の家庭の調度品、どこの家でも使っている物品、手作りの壁飾り等懐かしさと暖かさの感じる空間作りを工夫している。日差しの強い時はスクリーンで調節を行っている。	玄関には生花が飾られ、壁には手造りの装飾がさり気なく置かれています。居間の博多人形と畳のスペース等が共用スペース全体を懐かしさと、温かい空間に作り上げています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室と食堂間に仕切りを設けたり、廊下、玄関前に椅子を置き１人ひとりの好みに応じて過ごせる空間が用意されている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具、ベット等を持ち込み家族と共に居室を用意されている。本人の大切に思っている家族の写真を貼ったり、ミニ盆栽を置くなどその人らしい部屋つくりをしている。	居室の入り口には、それぞれに暖簾が下げられて、自室の確認源になっています。居室にはベット、仏壇、冷蔵庫などが持ち込まれ、その人らしさの工夫がされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関・トイレ・浴室・居間・廊下の要所に手摺が配置されている。洗面所は車椅子対応で、台所は対面キッチンで下膳ができるように工夫されている。		